

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

1 建学(前)

（ 受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。
 本日の受験地 仮受験番号 仮一 ）

平成 23 年度

1 級建築施工管理技術検定試験

学科試験問題（午前部）

次の注意事項をよく読んでから始めてください。

〔注 意 事 項〕

1. ページ数は、表紙を入れて 18 ページです。
2. 試験時間は、10 時から 12 時 20 分です。
3. 問題の解答の仕方は、下記によってください。
 - イ. [No. 1]～[No. 15]までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。
 - ロ. [No. 16]～[No. 20]までの 5 問題は、全問題を解答してください。
 - ハ. [No. 21]～[No. 33]までの 13 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
 - ニ. [No. 34]～[No. 45]までの 12 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 解答は、別の解答用紙に、〔HB〕の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
 それ以外のボールペン・サインペン・色鉛筆などを使用した場合は、採点されません。
6. 問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を次の例にしたがって塗りつぶしてください。



7. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、よごしたり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. この問題用紙は、午前部の試験終了時まで在席した方のうち、希望者は持ち帰ることができます。途中退席者や希望しない方の問題用紙は、回収します。

※ 問題番号〔No. 1〕～〔No. 15〕までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。

〔No. 1〕 伝熱に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 壁体の熱貫流抵抗は、熱伝達抵抗と熱伝導抵抗の和によって得られる。
2. 壁体の含湿率が増加すると、壁体の熱伝導率は小さくなる。
3. 外断熱の施された熱容量の大きな壁は、室温の著しい変動の抑制に有効である。
4. 熱損失係数は、建物の断熱性能、保温性能を表す数値として用いられる。

〔No. 2〕 照明又は採光に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 昼光率とは、全天空照度に対する室内のある点の天空光による照度の比をいう。
2. 照度とは、受照面の単位面積当たりの入射光束をいう。
3. グレアとは、高輝度な部分、極端な輝度対比や輝度分布などによって感じられるまぶしさをいう。
4. 光度とは、反射面を有する受照面の光の面積密度をいう。

〔No. 3〕 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 剛壁と多孔質材料との間に空気層を設けると、低音域の吸音率は上昇する。
2. 残響時間は、室容積に比例し、室内の総吸音力に反比例する。
3. 床衝撃音レベルの遮音等級を表すL値は、値が大きいほど遮音性能が高い。
4. 単層壁の透過損失は、一般に壁の面密度が大きいほど大きくなる。

〔No. 4〕 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 梁のせん断耐力は、一般にあばら筋量を増やすことにより増加する。
2. 梁に貫通孔を設けた場合の構造耐力の低下は、せん断耐力より曲げ耐力の方が著しい。
3. 柱梁接合部内の帯筋間隔は、原則として 150 mm 以下とし、かつ、隣接する柱の帯筋間隔の 1.5 倍以下とする。
4. 普通コンクリートを使用する場合、柱の小径は、原則としてその構造耐力上主要な支点間の距離の $\frac{1}{15}$ 以上とする。

〔No. 5〕 鉄骨構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 片面溶接による部分溶込み溶接は、継目のルート部に、曲げ又は荷重の偏心による付加曲げによって生じる引張応力が作用する箇所に使用してはならない。
2. 部材の引張力によってボルト穴周辺に生じる応力集中の度合は、普通ボルト接合の場合より高力ボルト摩擦接合の方が少ない。
3. 完全溶込み溶接による T 継手の余盛は、溶接部近傍の応力集中を緩和する上で重要である。
4. 高力ボルト摩擦接合における許容せん断力は、二面摩擦の場合は、一面摩擦の $\frac{1}{2}$ である。

〔No. 6〕 杭基礎に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

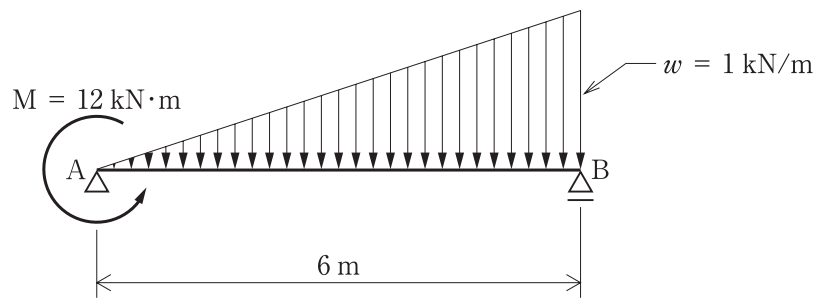
1. 支持杭を用いた杭基礎の許容支持力には、基礎スラブ底面における地盤の支持力は加算しない。
2. 埋込み杭は、打込み杭に比べて極限支持力に達するまでの沈下量が大きい。
3. 支持杭を用いた杭基礎の場合、杭周囲の地盤沈下によって杭周面に働く正の摩擦力を考慮する。
4. 地盤から求める単杭の引抜き抵抗力には、杭の自重から地下水位以下の部分の浮力を減じた値を加えることができる。

〔No. 7〕 建築物に加わる荷重，外力に関する記述として，最も不適当なものはどれか。

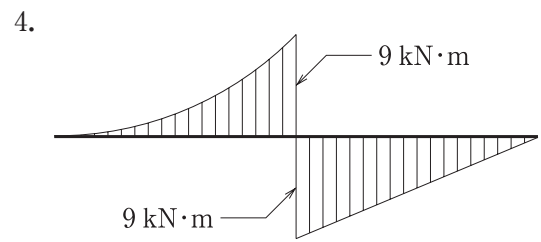
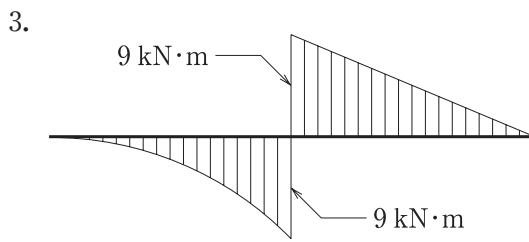
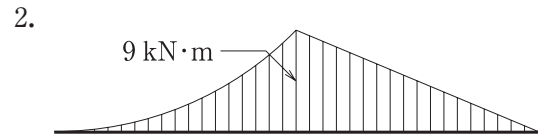
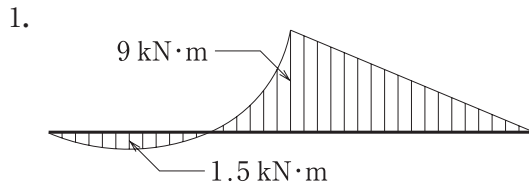
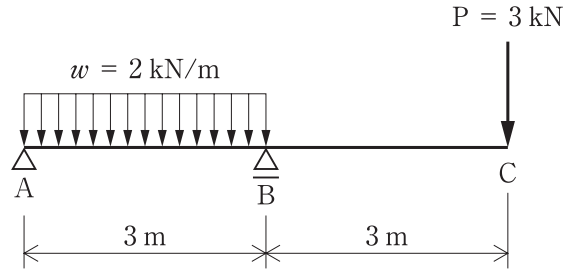
1. 雪止めが無い屋根の積雪荷重は，屋根勾配が60度を超える場合には0とすることができる。
2. 風圧力を求めるために用いる風力係数は，建築物の外圧係数と内圧係数の積により算出する。
3. 地震層せん断力は，2階に生じる地震層せん断力より1階に生じる地震層せん断力の方が大きい。
4. 保有水平耐力計算において，多雪区域の積雪時における長期応力度計算に用いる荷重は，固定荷重と積載荷重の和に，積雪荷重に0.7を乗じた値を加えたものである。

〔No. 8〕 図に示す単純梁に等変分布荷重 w 及びモーメント荷重 M が同時に作用するとき，支点Bの反力の大きさとして，正しいものはどれか。

1. 0 kN
2. 1 kN
3. 3 kN
4. 4 kN



[No. 9] 図に示す梁の AB 間に等分布荷重 w が、C 点に集中荷重 P が同時に作用するとき、曲げモーメント図として、正しいものはどれか。
 ただし、曲げモーメントは材の引張り側に描くものとする。



〔No. 10〕 コンクリートに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 単位水量の小さいコンクリートほど、乾燥収縮が小さくなる。
2. コンクリートに AE 剤を混入すると、凍結融解作用に対する抵抗性が改善される。
3. 空気量が 1 % 増加すると、コンクリートの圧縮強度は 4～6 % 低下する。
4. コンクリートのヤング係数は、圧縮強度が大きくなるほど、小さくなる。

〔No. 11〕 左官材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. せっこうプラスターは気硬性であり、しっくい水硬性である。
2. ポルトランドセメントは練り混ぜ後にアルカリ性を示し、せっこうプラスターは弱酸性を示す。
3. せっこうプラスターは、ドロマイトプラスターに比べ、硬化に伴う乾燥収縮が小さい。
4. ドロマイトプラスターは、しっくいに比べ、粘度が高く粘性がある。

〔No. 12〕 建築用ガラスに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 複層ガラスは、2枚のガラスの間に乾燥空気層を設けて密封したもので、結露防止に効果がある。
2. 合わせガラスは、2枚以上のガラスをプラスチックフィルムを挟み接着したもので、防犯に効果がある。
3. 熱線吸収板ガラスは、板ガラスの表面に金属皮膜を形成したもので、冷房負荷の軽減に効果がある。
4. 強化ガラスは、板ガラスを熱処理してガラス表面に強い圧縮応力層を形成したもので、衝撃強度が高い。

〔No. 13〕 防水材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ストレッチルーフィング 1000 の数値 1000 は、製品の抗張積（引張強さと最大荷重時の伸び率との積）を表している。
2. 改質アスファルトルーフィングシートには、Ⅰ類とⅡ類があり、Ⅰ類の方が低温時の耐折り曲げ性がよい。
3. 塗膜防水に用いる補強布は、必要な塗膜厚さの確保と立上り部や傾斜面における防水材の垂れ下がりの防止に有効である。
4. 通気緩衝シートは、塗膜防水層の破断やふくれの発生を低減するために用いる。

〔No. 14〕 日本工業規格（JIS）による建築用シーリング材に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 2成分形シーリング材は、基剤と着色剤の2成分を施工直前に練り混ぜて使用するシーリング材である。
2. シーリング材のクラスは、目地に対する拡大率、縮小率などで区分されている。
3. シーリング材の引張応力による区分で、LM は低モジュラスを表す。
4. シーリング材のタイプは、用途による区分を表し、タイプGはグレイジングに使用するシーリング材を指す。

〔No. 15〕 ボード類に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. フレキシブル板は、火山性ガラス質たい積物などの無機質原料及びセメントを原料として製造した板である。
2. けい酸カルシウム板は、石灰質原料、けい酸質原料、石綿以外の繊維、混和材料を原料として製造した板である。
3. シーキングせっこうボードは、両面のボード用原紙及び芯のせっこうに防水処理を施したものである。
4. ロックウール化粧吸音板は、ロックウールのウールを主材料とし、結合材、混和材を用いて成形し、表面化粧をしたものである。

※ 問題番号〔No. 16〕～〔No. 20〕までの5問題は、全問題を解答してください。

〔No. 16〕 舗装に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. プライムコートは、路盤の仕上がり面を保護し、その上のアスファルト混合物層との接着をよくするために施す。
2. フィラーは、アスファルトと一体となって、混合物の安定性、耐久性を向上させるために施す。
3. タックコートは、アスファルト混合物からなる基層と表層の接着をよくするために施す。
4. シールコートは、路床の水分が凍結しないように路床の上に施す。

〔No. 17〕 測量に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. スタジア測量は、レベルと標尺によって2点間の距離を正確に測定する方法である。
2. トラバース測量は、測点を結んでできた多角形の各辺の長さや角度を、順次測定していく方法である。
3. 直接水準測量は、レベルと標尺によって高低を測定する方法である。
4. 平板測量は、アリダードと巻尺で測量した結果を、平板上で直接作図していく方法である。

〔No. 18〕 避雷設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 高さが20 mを超える建築物には、原則として、有効に避雷設備を設けなければならない。
2. 危険物を貯蔵する倉庫は、高さや貯蔵量にかかわらず、避雷設備を設けなければならない。
3. 鉄骨造の鉄骨は、構造体利用の引下げ導線の構成部材として利用することができる。
4. 受雷部は、保護しようとする建築物等の種類、重要度等に対応した4段階の保護レベルに応じて配置する。

[No. 19] 消火設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 連結散水設備は、地下街など、火災が発生すると煙が充満して消火活動が困難な場所に設置される。
2. 水噴霧消火設備は、微細な霧状の水の噴霧による冷却、窒息効果により、自動車車庫などの火災に適している。
3. 屋内消火栓設備は、消火活動上必要な消防隊専用の施設として設置される。
4. 粉末消火設備は、消炎作用が大きく、油などの表面火災に適している。

[No. 20] 請負契約に関する記述として、「公共工事標準請負契約約款」上、誤っているものはどれか。

1. 受注者は、工事の施工に当たり、設計図書に示された施工条件と実際の工事現場が一致しないことを発見したときは、その旨を直ちに監督員に通知し、その確認を請求しなければならない。
2. 受注者は、工期内で請負契約締結の日から12箇月を経過した後に、賃金水準又は物価水準の変動により請負代金額が不相当となったと認めるときは、発注者に対して請負代金額の変更を請求することができる。
3. 受注者は、発注者が設計図書を変更したために請負代金額が $\frac{1}{2}$ 以上減少したときは、契約を解除することができる。
4. 受注者は、工事目的物及び工事材料等を設計図書に定めるところにより火災保険、建設工事保険その他の保険に付さなければならない。

※ 問題番号〔No. 21〕～〔No. 33〕までの 13 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。

〔No. 21〕 墨出しに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建物四隅の基準墨の交点を上階に移す場合、間違いや誤差を避けるために4点とも下げ振りで移す。
2. 仕上げ部材を取り付けるための墨は、近接する既に出された他の部材の仕上げ墨を基準として墨出しを行う。
3. 鉄骨鉄筋コンクリート造では、一般に鉄骨柱を利用して躯体工事用の基準高さを表示し、これによりレベルの墨出しを行う。
4. 床面の通り心などの基準墨は、一般に1 m離れた位置に返り墨を設ける。

〔No. 22〕 地盤調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 一軸圧縮試験により、砂質土の強度と剛性を求めることができる。
2. 電気検層（比抵抗検層）により、ボーリング孔近傍の地層の変化を知ることができる。
3. 粒度試験により、細粒分含有率等の粒度特性を求めることができる。
4. 常時微動測定により、地盤の卓越周期を把握することができる。

〔No. 23〕 山留めの管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 山留め壁の頭部の変位を把握するために、トランシットやピアノ線を用いて計測を行った。
2. 油圧式荷重計は、切梁の中央部を避け、火打梁との交点に近い位置に設置した。
3. 山留め壁周辺の地盤の沈下を計測するための基準点は、山留め壁に近接した地盤面に設けた。
4. H形鋼を用いた切梁の軸力を計測するためのひずみ計は、2台を1組としてウェブに設置した。

〔No. 24〕 既製コンクリート杭の施工に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 先端が開放されている杭を打ち込む場合、杭体内部への土や水の流入が原因で杭体が損傷することがある。
2. 中掘り工法では、砂質地盤の場合、緩みがはげしいので、先掘り長さを少なくする。
3. 杭に現場溶接継手を設ける場合、原則としてアーク溶接とする。
4. 埋込み工法において、プレボーリングによる掘削径は、杭径より 10 cm 程度小さくする。

〔No. 25〕 普通コンクリートを用いる構造部材における鉄筋のかぶり厚さに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 屋内の梁の最小かぶり厚さは、仕上げの有無にかかわらず 30 mm とする。
2. 直接土に接する部分の床スラブの最小かぶり厚さは、30 mm とする。
3. 設計かぶり厚さは、最小かぶり厚さに 10 mm 程度を加えたものとする。
4. 杭基礎の基礎筋（ベース筋）の最小かぶり厚さは、杭天端から確保する。

〔No. 26〕 鉄筋（SD 345）のガス圧接に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 隣り合う鉄筋のガス圧接継手の位置は、400 mm 以上ずらした。
2. 同一径の鉄筋のガス圧接部のふくらみの長さは、鉄筋径の 1.1 倍以上とした。
3. 圧接器に鉄筋を取り付ける際、鉄筋突合せ面のすき間は 2 mm 以下とした。
4. 径の異なる鉄筋のガス圧接部のふくらみの直径は、細い方の鉄筋径の 1.2 倍以上とした。

〔No. 27〕 型枠工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. スラブ型枠の支保工に用いる鋼製仮設梁のトラス下弦材の中央部を、パイプサポートで支持した。
2. 柱型枠の組立てにおいて、型枠の精度の保持を目的のひとつとして、足元は栈木で固定した。
3. コンクリート表層部をち密にするため、余剰水の排水ができるように透水型枠を採用した。
4. コンクリート表面に残る丸型セパレーターのねじ部分は、ハンマーでたたいて除去した。

〔No. 28〕 普通コンクリートの調合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 球形に近い骨材を用いる方が、扁平なものを用いるよりもワーカビリティがよい。
2. 水セメント比を低減すると、塩化物イオンの浸透に対する抵抗性を高めることができる。
3. コンクリートの単位水量は、一般に 185 kg/m^3 以下とする。
4. コンクリートの単位セメント量の最小値は、一般に 250 kg/m^3 とする。

〔No. 29〕 コンクリートの養生に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 膜養生剤を塗布して水分の逸散を防ぐ湿潤養生は、ブリージングが終了した後に行う。
2. 普通ポルトランドセメントを用いたコンクリートの場合、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生しなければならない期間は、コンクリート打込み後3日間である。
3. 大断面の部材で、中心部の温度が外気温より $25 \text{ }^\circ\text{C}$ 以上高くなるおそれがある場合は、保温養生により、温度ひび割れの発生を防止する。
4. 普通ポルトランドセメントを用いた厚さ 18 cm 以上のコンクリート部材においては、計画供用期間の級が標準の場合は、コンクリートの圧縮強度が 10 N/mm^2 以上になれば、以降の湿潤養生を打ち切ることができる。

〔No. 30〕 鉄骨の溶接に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 裏当て金を用いる柱梁接合部のエンドタブの取付けは、母材に直接溶接した。
2. クレーンガーダーのエンドタブは、溶接後切除してグラインダーで仕上げ加工した。
3. 溶接を手溶接とするので、エンドタブの長さは、自動溶接より短くした。
4. 完全溶込み溶接の両端に、継手と同じ開先のエンドタブを取り付けた。

〔No. 31〕 鉄骨の耐火被覆に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 柱の耐火被覆材の吹付け厚さは、確認ピンを用いて、各面に1箇所以上差し込んで確認した。
2. 高層建物の耐火被覆材の吹付けは、ロックウール、セメント、せっこう、水を混合して圧送する乾式工法で行った。
3. 巻付け工法において、耐火被覆材の取り付けに用いる固定ピンは、鉄骨にスポット溶接により取り付けた。
4. 耐火板張り工法において、繊維混入けい酸カルシウム板は、一般に吸水性が大きいため、雨水がかからないよう養生を行い、接着剤と釘を併用して取り付けた。

〔No. 32〕 揚重運搬機械に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 傾斜ジブ式タワークレーンは、高揚程で比較的重量の大きい荷のつり上げに用いられる。
2. ジブクレーンの定格荷重は、フック等のつり具の重量を含めたものである。
3. ロングスパン工事用エレベーターの定格速度は、毎分10 m以下である。
4. 建設用リフトの停止階には、荷の積卸口の遮断設備を設ける。

[No. 33] 鉄筋コンクリート造の耐震改修工事における柱補強工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 溶接金網巻き工法において、溶接金網に対するかぶり厚さ確保のため、溶接金網は型枠建込み用のセパレーターに結束して固定した。
2. 溶接閉鎖フープ巻き工法において、フープ筋の継手は、溶接長さが片側 $10d$ (d はフープ筋の径又は呼び名に用いた数値) 以上のフレア溶接とした。
3. 鋼板巻き工法において、 \sqcap 形に加工した2つの鋼板を \square 形に一体化する際、接合部の溶接は部分溶込み溶接とした。
4. 連続繊維補強工法のシート工法において、シートの切り出し長さは、柱の周長にラップ長さを加えた寸法とした。

※ 問題番号〔No. 34〕～〔No. 45〕までの 12 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。

〔No. 34〕 合成高分子系ルーフィングシート防水に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 加硫ゴム系シート防水において、接着仕様の防水層立上りの末端部の処理は、押え金物で固定し、シール材を用いた。
2. 加硫ゴム系シート防水の出隅角の処理は、シートの張付け前に非加硫ゴム系シートで増張りを行った。
3. 塩化ビニル樹脂系シート防水の出隅角の処理は、シートの張付け後に成形役物を張り付けた。
4. 塩化ビニル樹脂系シート防水において、シート相互の接合部は、クロロプレンゴム系の接着剤により接合した。

〔No. 35〕 塗膜防水に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ウレタンゴム系防水材の塗継ぎの重ね幅を 50 mm、補強布の重ね幅は 100 mm とした。
2. ウレタンゴム系防水材の平場部の総使用量は、硬化物比重が 1.0 のものを使用し、 3.0 kg/m^2 とした。
3. ゴムアスファルト系地下外壁仕様において、出隅及び入隅は、補強布を省略しゴムアスファルト系防水材を用いて、増吹きにより補強塗りを行った。
4. ゴムアスファルト系室内仕様の防水材の総使用量は、固形分 60 % のものを使用し、 4.5 kg/m^2 とした。

〔No. 36〕 乾式工法による外壁の張り石工事にに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 厚さ 30 mm、大きさ 500 mm 角の石材のだぼ穴のはしあき寸法は、60 mm とした。
2. 下地面の寸法精度は、 $\pm 10 \text{ mm}$ 以内となるようにした。
3. だぼ穴からはみ出ただぼ穴充填材は、硬化前に除去した。
4. ファスナーは、ステンレス鋼材の SUS 304 を使用した。

〔No. 37〕 金属製折板葺屋根工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. けらば包みの継手位置は、けらば用タイトフレーム間の中央付近とした。
2. 屋根の勾配が小さいので、軒先に 15°の尾垂れを付けた。
3. 水上の先端部分には、雨水を止めるために止水面戸を設けた。
4. 水上部分と壁との取合い部に設ける雨押えは、壁際立上りを 150 mm とした。

〔No. 38〕 軽量鉄骨壁下地に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ランナーは、両端部は端部から 50 mm 内側で固定し、中間部は 900 mm 間隔で固定した。
2. スタッドは、上下ランナーに差し込み、半回転させて取り付けした。
3. スタッドの間隔は、ボード 2 枚張りの場合は 600 mm とし、ボード 1 枚張りの場合は 300 mm とした。
4. スタッドの建込み間隔の精度は、 ± 5 mm とした。

〔No. 39〕 防水形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材（防水形複層塗材 E）に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 下塗材の所要量は、試し塗りをを行い、 0.2 kg/m^2 とした。
2. 増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部まわり等に、はけ又はローラーにより行った。
3. 主材の基層塗りは 2 回塗りとし、だれ、ピンホールがないように均一に塗り付けた。
4. 凸部処理は、主材の模様塗り後 1 日経過してから行った。

[No. 40] アルミニウム製建具に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アルミニウム合金がコンクリート、モルタルに接する箇所には、ウレタン樹脂系の塗料を施した。
2. 建具枠のアンカーは、枠を確実に固定できる構造とし、間隔は 500 mm 以下とした。
3. 外部建具周囲のモルタルを充填する際は、仮止め用のくさびを取り除いた。
4. 外部建具周囲の充填モルタルは、NaCl 換算 0.06 % (質量比) 以下まで除塩した海砂を使用した。

[No. 41] コンクリート素地面の塗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 2 液形ポリウレタンエナメル塗りにおいて、下塗り及び中塗りの工程間隔時間の上限は 7 日とした。
2. 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りにおいて、気温が 20℃ だったので、塗膜の層間付着性に配慮し、工程間隔時間を 24 時間とした。
3. アクリル樹脂エナメル塗りにおいて、中塗り、上塗りには、同一材料を使用し、塗付け量は 0.09 kg/m^2 ずつとした。
4. 合成樹脂エマルジョンペイント塗りにおいて、流動性を上げるため、有機溶剤で希釈して使用した。

[No. 42] ビニル床シート張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 熱溶接工法の溶接部の溝は、V 字形とし、深さを床シート厚さの $\frac{2}{3}$ とした。
2. 湯沸室の床への張付けには、酢酸ビニル樹脂系接着剤を使用した。
3. 寒冷期に施工する際、採暖を行い、床シート及び下地とも 5℃ 以下にならないようにした。
4. 床シートを立ち上げて幅木としたので、天端処理は、シリコーンシーリング材でシールする方法とした。

〔No. 43〕 断熱工事における硬質ウレタンフォームの吹付け工法に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリート面に吹き付ける場合、吹付け面の温度は 20 ～ 30℃ が適当である。
2. 吹付け作業は、随時厚みを測定しながら作業し、吹付け厚さの許容誤差は 0 から + 10 mm とする。
3. 換気の少ない場所では、酸欠状態となりやすいので、強制換気などの対策を行う。
4. 冷蔵倉庫など断熱層が特に厚い施工では、1 日の最大吹付け厚さは 100 mm とする。

〔No. 44〕 メタルカーテンウォール工事に関する一般的な記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 床面に取り付けるファスナーのボルト孔は、躯体の施工誤差を吸収するため、ルーズホールとした。
2. 部材の熱伸縮による発音を防止するため、滑動する金物間に摩擦低減材を挟んだ。
3. パネル材は、脱落防止のために 3 箇所以上仮止めし、本止め後速やかに仮止めボルトを撤去した。
4. 組立て方式は、すべての構成部材を工場を組み立てるノックダウン方式とした。

〔No. 45〕 内装改修工事における既存床仕上げ材の撤去及び下地処理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ビニル床タイルは、ダイヤモンドカッターで切断し、スクレーパーにより他の仕上げ材に損傷を与えないように撤去した。
2. 合成樹脂塗床の塗り替えにおいて、下地面に油が付着していたので、油潤面用のプライマーを用いた。
3. コンクリート下地の合成樹脂塗床材は、電動ケレン棒を使用し、コンクリート下地表面から 3 mm 程度の深さまで削り取った。
4. 磁器質床タイルを電動はつり器具により撤去する際に、張替え部をダイヤモンドカッターで縁切りをした。